掲示板

如来は
私を信じ
敬い
愛する

西尾市唯法寺掲示板より

赤羽御坊

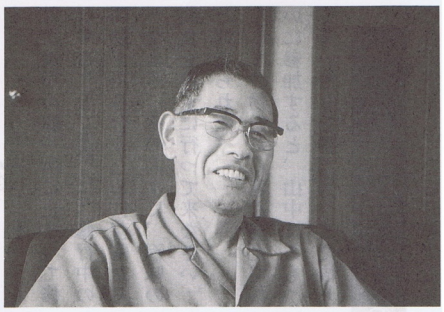
赤羽別院報　第４号
発行所
真宗大谷派　赤羽別院　親宣寺
発行人　野々山洪美
愛知県幡豆郡一色町赤羽上郷中14
Tel. Fax.（0563）72－2308
印刷／㈱教育広報センター

シリーズ

人間模様 ④

西尾市平口町　山崎正広さん

二十歳で大河内了悟師に学び、教員生活を続けながらひたすら清沢満之を求め続けてこられた山崎正広（67）さんは、自らを「落第教師、落第じいさん」と呼ばれる。「地獄餓鬼畜生　本願はこの身のためにここに」と書かれた書斎の貼り紙が何とも印象的であった。



山崎　清沢満之の五十回忌（昭和二七年）のとき暁烏敏師が岡崎にみえてね。その時の暁烏さんの法話を聞いて、清沢満之というすごい人がおいでるんだなあと、学生であった私はものすごい感動をしたんですよ。

―それが仏法とのはじめての出会いですか。

山崎　実はその三年程前から大河内先生に学んでいたんです。先生には亡くなられるまでの二七年間お育てを頂きました。近頃私は満之の「如来を信ずるものに失敗なし」という言葉にとても感動していましてね。私は失敗ばかりして結局胃ガンになってしまいました。しかし清沢先生は失敗なしとおっしゃる。これはどういうことなのかずっと考えました。

―今はどのようにお感じですか。

山崎　失敗だと思っていることが実はうぬぼれであったと。全てが如来様のはたらきのなか。ところが如来にまかせきっておらん自分があるんです。今あらためて私の生死ともに如来に育てられてきたなあと実感していますよ。

―ご自分からすすんで学校を変わられたようですが。

山崎　どうしても清沢満之の勉強がしたくて、四七年に一色から碧南に変えてもらいました。棚尾小学校では早速学芸会で「清沢満之物語」を創作上演したんです。西端小学校では蓮如さんもね。

―満之に学ぶ会もその頃はじめられたのですか。

山崎　そうです。碧南に行ってすぐ大浜で清沢満之に学ぶ会をはじめました。そうしたら各地に埋もれていた資料がどんどん集まってきましてね。嬉しかったですね。

―今の時代をどう思われますか。

山崎　いのちの問題がはっきりしないですね。いじめや差別の問題が周りにあふれています。親鸞さんの教えを聞いてきたものの一人として、私にとっても大きな課題です。

ところで手術直前に、心境を詩に書き留めましてね。『失敗』というんです。「ああすればよかった／もう遅いことだが愚痴が出る／どうにもならない／清沢先生は如来を信ずるものに失敗はないと教えたまう／だが失敗のままこの人生が終わるような気がする／家の者に周りの人にずい分迷惑をかけ続けてきた／失敗という一念を念仏して頂くより道はない」と。清沢先生は「宗教は人心をして根帯を自覚せしむるものなり」とおっしゃる。皆、そして仏様とも根っこで繋がっているんですよ。ありがたいことです。　（M・H・O）

蓮如絵伝を読む（4）

碧南　青木　馨

―吉崎踏査―

文明三年（一四七一）五十七歳の時、蓮如上人は越前国吉崎へ赴かれた。年来虎狼の住み慣れしこの山中を引き平らげて（御文一―八）、坊舎が短時間で出来たようである。

この時上人は、夢の中で一頭の鹿に出会い導かれて山頂に登るとそこに一人の僧が現れた。この人は常陸の鹿島の信海と名のり、もともとは鹿島神宮の神官で、後に親鸞聖人のお弟子となった人である。この時信海は聖人の使者として、この地は仏法繁昌の地となりうる所であることを告げた。あるいは吉崎の地元の伝説では、白ひげの老人が現れ「わたしは鹿島の森に住む大明神である」と言って、御坊建立の後には自らが守護することを約束した。

吉崎の御坊に相対して北潟湖に「鹿島」が浮かび、地形の上からもうなずけるが、実は親鸞聖人の門弟であった性信や順信房信海や笠間氏などは、常陸の鹿島社との関係が深かったので、聖人も何らかの交渉があったと考えられる。一方ではまた鹿島社が、聖人の血筋である藤原氏ゆかりの奈良春日大社と興福寺（両者は神仏習合という点では一つであった）と深い関係にあることも、その背景にあると考えられる。

この吉崎周辺は、歴史事実の上では奈良興福寺の大乗院の所領であったことが、昭和になって学問の上に明らかにされた。大乗院の門跡は経覚僧正も歴任しており、この人は本願寺と血縁関係にあった人で、蓮如上人は若い頃から深く世話になったようである。

吉崎の鹿をめぐる伝承の背後に、親鸞聖人・鹿島社・興福寺・大乗院・蓮如上人との間で史実と伝説が相互いに関連しており、大変興味深いところである。

赤色赤光

夏本番、予報に反して連日の猛暑である▼夏といえば終戦、高校野球、お盆、まつりなどが風物詩として定着しつつある。各寺院に於いても暁天講座が勤まり、早朝の賑わいを見せている▼一方、世間の賑わいはどうか。世論、マスコミは現代社会を狂気、不透明な時代として捉え「暗闇社会に出口なし」と示唆している▼神戸の事件、大手金融機関の不祥事、沖縄基地問題等々課題は山積みである。各々の現場では対応策に追われ、混迷苦慮する姿が報道されている▼これら一連の原因究明の場では責任という言葉が出るわけであるが、果たして責任とは何か▼「日本人は責任をとらない」「金で全てを押え込む民族である」と諸外国からも指摘されているが、快楽、快適さのみを求める日本人は痛みを感ずることなく、身に背負うこともなく流されている▼今、恩徳讃の「身を粉にしても報ずべし」「骨をくだきても謝すべし」を問い返す時、責任の二文字は離れ難いものとなる。　（M）

赤羽別院　暁天講座

早朝5時30分～6時50分
8月20日㈬　青木　馨師
「真宗再興―蓮如上人の志願」
8月21日㈭　平野　眞師
「殉教記念法要（台嶺さん）」
参加費　千円（二日間通し）
申　込　お手次ぎ寺か、当日受付に申込み下さい。

ウォッチング お盆 クローズアップ

お盆は盂蘭盆経に由来する法会である。盂蘭盆とは、ウッラムバナという「逆さ吊りの苦しみ」を意味するインドの古い言葉を音写したもので「盆」はその略語である。

経の内容は、単純に祖霊の供養を説いていない。そこに注意して少し脚色を加えて読んでみたい。

仏弟子の目連が修行に励んだので六神通という大きな力を得た。ちょうどその時、死んだ母親が餓鬼道に落ちた姿で現われる。目連は救おうとするが助けられない。その苦しみをお釈迦様にうちあけると「ちょうど安居（仏弟子たちが雨期の間一所に止まって修行すること）を終えて、修行中の問題を語り合うために菩薩たちが集まる。その人々に、百味の飲食を供えに行って来なさい」と教えられた。

うまい物をたくさん携えて集いに参加すると、山中にこもって深い悟りを得た者、また悟りに自己満足している者を叱る先輩修行者等多くの仲間に出会った。そのとき目連は「自分は高い悟りを得たと思い、そこに腰をおろして修行の目標を見失うところだった。母があの姿で現われたのは、自分だけ救われたことに満足せず、母のように迷いのうちに命終わる多くの者を忘れずに、ともに救われて行く道を明らかにせよと、励ましていたのだ」と気付く。

目連は精進しようと誓う。それが母に応える道だと確信した。すると今までの重苦しい気持ちは消えて、深い歓びに満たされた。仲間と共にその歓びを表わしたのが盆踊りであり、この法会を歓喜会ともいう。

この経典は、インドに原典が存在しない偽経とされるものである。たぶん外来の宗教である仏教を、祖霊供養に熱心な漢民族に受け入れやすい形にした中国製の経典であろう。その祖霊供養だけを受け取って、肝心な仏教が伝えたいことは見落とされてしまったようだ。

私達は、お盆を死んだ人にお供えをして供養するものだと思っている。しかし経には、死んだ母親ではなく、修行する仲間に供えよと勧めているのである。目連は、その菩薩達に交わることによって、ひとりよがりの悟りから脱却することが出来た。「逆さ吊りの苦しみ」という経の名は、一応は母の餓鬼道に落ちた姿であるが、目連が食べ物を母に供えて救おうともがき苦しむ姿でもある。祖霊に供えものをして救おうというのは逆さまであって、父母や先祖から仏道を歩めと願われていたのだった。供養したいというならば、それに応えることこそ供養であると説いているのである。（U）

仏説盂蘭盆経を読む

ご本尊を中心とした生活を

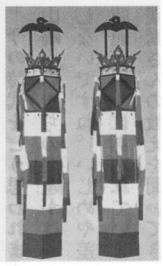
お内仏のお盆のお荘厳（かざり）

盂蘭盆会のお内仏のお荘厳りは、上卓・前卓に打敷をお掛けし、平常と同じ三具足（鶴亀燭台・土香炉・花瓶）でお荘厳りします。

お内仏の前の両端に、倒懸、逆吊りを意味する切籠灯籠を吊ります。朝夕のお勤めには、切籠灯籠に点火し、お勤めをします。お仏供は、朝のお勤めをしてから備え、正午には下げます。

供笥に餅、落雁などを杉盛にし一対のお荘厳りをします。そうめんなどが備えてある場合がありますが、本来は用いません。盆提灯も、お荘厳りとしては用いません。又、夏に収穫した作物などを備える場合は、別に机などを用意し備えます。

お盆休みと、親しみ深いのですが、元々は祖先の報恩の行事として営まれ、歓喜会とも言われる。真宗門徒として、雑多な迷信を拭い去り、仏法の報恩にまで深め、本尊を中心とした生活を心がけましょう。（N）



▲切籠灯籠（きりこどうろう）

LET'S"聞法" 夏の講座案内（8月）

暁天講座（早朝の法話会）

●吉良町**良興寺**8月1〜5日住職他●一色町**養林寺**1日安藤伝融師2日小谷香示師3日桜部明師●安城市**明水寺**1・2日堀田護師3日安藤伝融師●一色町**明栄寺**9日住職10日太藤順誼師11日野田風雪師●碧南市**蓮成寺**10日安藤伝融師11日大河内有子師12日住職●**第十一組**「御文を読む」22日**正念寺**高木真正師**浄徳寺**石川勇吉師●23日**浄賢寺**岩田信行師**恵教寺**高木真正師●24日**善福寺**戸松憲仁師**本澄寺**岩田信行師●25日**唯法寺**青木馨師**唯信寺**鈴木聡師●26日**聖運寺**和田純悟師**無量寿寺**青木馨師●27日**常照寺**小谷香示師**恵琳寺**伊奈祐諦師

夏期真宗講座

●8月18日(月)昼一時、19日(火)朝九時半、西尾市花蔵寺町慶昌寺18日夜七時半、西浅井町宿縁寺「いのち見失うとき—蓮如上人に学ぶ—」**祖父江文宏師**●8月18日(月)**河村とし子師**、岡崎高須顕宗寺●8月21日(木)22日(金)**松本梶丸師**、豊田挙母支院●8月22日(金)「信じるよろこび」**太田祐周師**、安城桜井法行寺●8月23日午前午後「エピソードで綴る蓮如の生涯」**沙加戸弘師**、24日午前午後「蓮如上人から学ぶこと」**加藤智見師**、吉良町良興寺

(注)時間等詳細については、直接会場にお確かめ下さい。（N）

赤羽別院紹介

●責任役員人事（七月一日付）

◆新任　光明寺住職　永谷在　細池町浄徳寺門徒　高須邦治(赤羽)

◇退任　木村修　高須行雄

●行事案内

◆毎月13日・28日　晨朝法話

◆8月17日・9月15日・10月15日　真宗講座　亀井　鑛氏

◆8月20日・9月10日　聖典学習会　櫻部　建師

◆8月20日・21日　暁天講座

◆9月18日〜24日　秋季彼岸会

◆10月4日　蓮如上人五百回御遠忌お待ち受け法要・帰敬式

●「赤羽御坊」協賛者芳名

▼一色町養林寺▼吉良町正向寺▼西尾市聖運寺▼一色町隆勝寺▼豊田市浄覚寺▼一色町牧野一夫▼西尾市上矢田町浄徳寺同行中▼碧南市蓮成寺▽石川電業社▽深見脩▽信證寺▽徳行寺▽福正寺▽安楽寺▽鈴木きよ▽本龍寺▽正念寺▽小谷香示▽佐々木祐誓▽土谷松治▽了願寺▽榊原将▽随縁寺▽通因寺▽明栄寺▽吉崎礼二郎仏檀店▽水野酒店▽教栄寺▽伴信治▽伴繁夫▽杉浦葬具生花店▽三河屋葬具店▽お仏壇の円相

(他に一万円未満の協賛者多数)

▼＝初回掲載▽＝二回以上掲載

●編集後記

美味しいと評判の別院の井戸が涸れてしまって残念▼建物へのいたずらが尽きず苦悩多し。（T）

「赤羽御坊」発行の協賛志を募集しています。